

思い當り

狂言

大江戸の

名残

忠臣蔵文句くち合 下

絶えて急遽対面に 名士屋にて親子

ほしがる所は山くある 死絵

心ところがすり合ねば 覚悟をきわめ

御先祖代々われくも代々 團蔵

きのふのけんくわのかどちがひ さげのこりあるいた八代目の噂

三十になるやならずにおしい事をいたしました

おいたわしいは母者ひと 実母

明た口ふさがれもせずうつとりと 待にまつたけん物

血にそまる切先を打守りむねんの泪はらくく 門弟中

親におとらぬ力弥めが さる蔵

判官さらに気が付ず 弟十兵衛

なぜあわせては下さんせぬ ひいきのむすめ連

死る道ならおまへよりわたしが先へしなねばならぬ 極ひいきの女中

嗚御本望で御座らふかの けちらされた外の芝居

切腹にはおよぶましと 巷の評判

日本一のあほうの鏡 なごやより出りにつれてのぼつた金主

胸にわすれぬむねんのおもひ 畑や七右衛門

五たいも一度にのふらんし四十四の骨々もただたるやうにあつたはやい 海老蔵